

# Act3. 最終目標は「市民総参画」

**課題**も多い。今回の仙台・宮城DCを知らなかった市民の方も多くいると聞いているし、「観光分野のことなので、あまり自分には関係ない」と感じている方も多いのではないだろうか。推進協議会では、プレ仙台・宮城DC前から、市内で開催されるイベントや、おもてなしの心を市民の方々に持っていただくよう周知に努めてきた。キャンペーンに向けて、市内保育園の子どもたちがコスモスの種まきを行ったり、白石陽光園の皆さんが花を育て、シルバー人材センターの皆さんが植栽したりするなど、市民の意識が高まった一方、市民総意としての盛り上がりには欠けた面も否定できない。この点について、取材した方々は、一様に「時間をかけて、市民総参画の観光振興気運を盛り上げていきたい。今回のキャンペーンは、あくまで『始まり』であり、市民総参画に向けて第一歩を記したという事実こそ重要だ」と話した。

現在、本市の経済は人口の減少や景気低迷に伴って縮小傾向にあり、経済規模の縮小がさらに人口減少などを生み出すといった「負のサイクル」に直面している。観光振興は、市内経済を活性化させるための重要な手段だ。観光業の振興が他業種を刺激し、市全体の経済を活性化させる。その収益は市税収入にもつながり、まちづくりのために活かされる。この「正のサイクル」を、市民全体で共有し、発展させていきたい。

一口に「観光」と言っても、その内容は10年前、20年前と比較して大きく変質したと言われている。観光客の「来る目的」が明確化、高度化、多様化しているというのだ。それは、単に「あの施設を見てみたい」というものではなく、「あの施設にいる、あの面白い人に会いたい」「あの施設で用意している、あのメニューが食べたい」といったものだ。逆に言えば、一度そいういった観光客の心をとらえることができれば、その方は「リピーター」として何度でもこのまちを訪れてくれる可能性が高いという。このことは、真に私たち「受け入れる側」として温かい心を持つことを要求する。難しいことではない。道を尋ねられたときの親切心、おいしいお店を尋ねられたときの対

応。その一つ一つが「もう一度来たいまち・そうでないまち」の分岐点になるのだ。

今回のキャンペーンで培われたノウハウが、今後どのように観光振興に活かされていくのか、その長期的・具体的な道筋はまだ見えていない。参加する事業所の利益確保や、新たな体制の整備など、多くの課題が残されている。そういった意味で、仙台・宮城DCは業種の枠を超えて、数多くの人がまちの将来を考える機会ともなった。それが自由に意見を述べながら、観光振興を前向きに進めていく必要がある。これは逆にチャンスだ。課題と正面から向き合い、真剣に打開策を考え、お互いに協力しながら取り組んでいくまちが強くなる。

仙台・宮城DCは「観光都市・白石」の実現に向けた第一歩。観光振興は、関係する事業者はもちろんのこと、地域、行政、そして市民が丸となって取り組むべき課題である。大切なのは「市外から訪れた観光客に家族のように接し、困っていれば助ける心を持つこと」。

そう、郷土を愛する心を持つように……。

(一)

**今**回のキャンペーンで主導的な役割を果たした仙台・宮城DC白石市推進協議会。推進協議会では、今回のキャンペーンをどのように総括しているのだろうか。会長の太宰雄一(写真右)とお話を伺った。

「仙台・宮城DCは2年間というロングランだった。白石にとっては、最近なかった大きな事業。詳しい分析はこれからだが、成功裏に終えることができている。2年間のうち、前半は片倉小十郎公の人氣が後押ししてくれたし、後半については、1年目の反省点を生かし、白石の風土に合わせて各種事業を前倒して実施したことなどが功を奏した。JR東日本が制作した吉永小百合さんの

CMも後押ししてくれた。官と民が一体になり、「観光振興」という一つの目標に向けて取り組んだことが、何より大きな成功の要因ではないか」と話す太宰会長。その効果について「経営者の中には『この仙台・宮城DCが、経営方針を切り替える一つのきっかけになった』と話す人もいる。また、このキャンペーンのおかげで、白石というまちが持つ魅力を新たに発見できたことも多い。このキャンペーンで培ったノウハウをここで終わらせ



仙台・宮城DC白石市推進協議会  
会長 太宰雄一

# Act2. 推進協が語るDCの総括



仙台・宮城DC白石市推進協議会  
会長 梶川勝利

るのではなく、次に生かしていきたい。道はまだ半ば。熱が冷めないうちに、新しい推進母体の設置も含め、次策を検討したい」と話した。

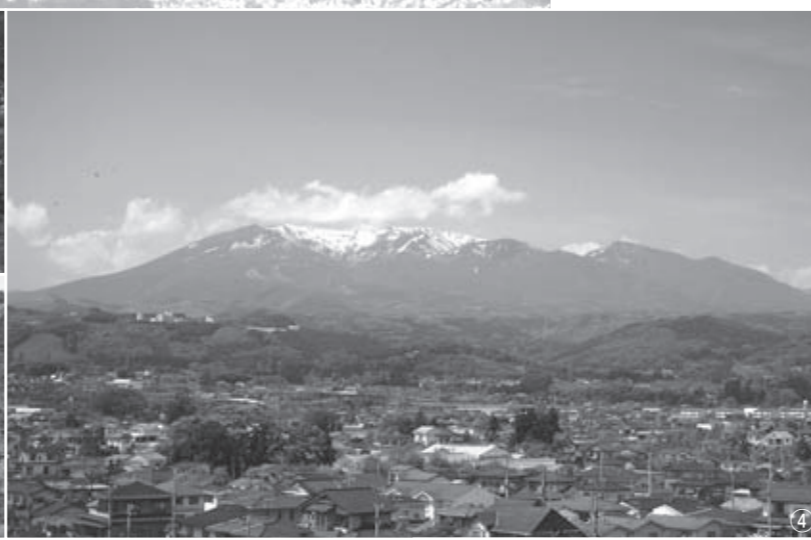
協議会の事務局員で、実行委員でもある商工会議所の梶川勝利さん(写真左)も「最大の成果は、異業種間の横の連携が出来上がったこと。私自身、過去に会う機会がなかった方々と知り合うことができた。昨年以前年の反省を生かし、4月の段階で各団体などからの情報をまとめ、年間計画を立てた。大勢の方に協力いただき、段取りもスムーズに進んだ」と話す。DCの本期間は10月から12月。12月ともなれば、白石は気候的に観光客誘致が厳しくなる。これを見越して、イベントを前倒して実施するなどの工夫を凝らした協議会。観光客誘致のためのノウハウは、確実に上昇している。



⑦ 古典芸能伝承の館・碧水園は、市内外から高い評価を得ている。



⑧ はこけし、⑨ は温麺、⑩ は白石和紙の紙すき



いづれも本市を代表する地場産品。いかに観光戦略と結びつけるか。



⑪ 仙台・宮城DCで活躍した黄色いレンタサイクル。観光客の評判も上々であった。



- ① 昨年10月4日に白石で行われた鬼小十郎まつり。市民はもちろん、県内外から3,000人が来場。
- ② 昨年10月19日に中町で行われた「大道芸&鍋食べまくり」。大勢の市民が足を運んだ。
- ③ 毎年5月3日に行われる白石市民春まつりは、観光客にとっても大きな魅力。
- ④ 蔵王の雄大な自然を有する本市は、さまざまな観光戦略を企画することが可能。
- ⑤ は謙先温泉、⑥ は小原温泉。市中心部との距離をいかに縮めるかも課題の一つ。